

目的．天然染料は一般に合成染料に比べて染色の方法が面倒であるという難点を有している。中でも、紅花、紫根、茜、藍などは古くからの代表的な天然染料であるが、これらはそれぞれに抽出や吸着、発色の方法或いは媒染の方法が異なっており特に煩雑である。もし、これらの天然染料をその種類を問わず、同一の簡便な方法で染色することが出来れば、天然染料の難点の一つを解消することが出来るであろう。そこで、演者らは色々の方法を検討した結果、若干の知見を得たので報告する。

方法．紅花の花弁(または花餅)、紫根、茜、藍などをそれぞれ乾燥し粉碎したものを使用した。これらをいずれも適量とって、分散染色法を準用して染色した。すなわち、これらの粉末をロート油と共によく練り、水を加えて染浴とした。これに絹および木綿白布またはアルミニウム先媒染した絹および木綿布を投入し、それぞれの染料に適した温度で30分乃至1時間染色した。

結果．いずれも従来 of 染色法に匹敵する染着量を得ることが出来たが、必要に応じてこの染色方法を反復すれば、さらに濃色を得ることが可能である。例えば、紅花の場合、アルカリ抽出、吸着、酸発色という面倒な操作をすること無しに絹には黄味赤色、木綿には紫味赤色に染色することが出来、予め赤色素のみを分離しておけば、絹も簡単に美しい紫味赤色を得ることが出来る。また、紫根および茜の場合は、抽出無しにアルミニウム先媒染布を投入することにより、藍の場合は還元すること無しにそれぞれ簡単に紫色、赤色および青色を得ることが出来る。